

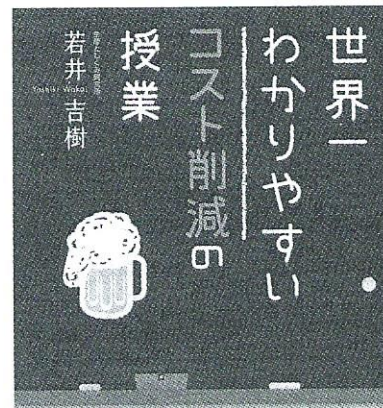
Book Review



現場がわかり実務に役立つ 生産管理の仕事がわかる本

菅間 正二 著
定価 1,680円(税込)
同文館出版

わが国のモノづくりの現場がどのような仕組みでどのようなことを行い、企業利益を創出しているのか、実務経験豊富な著者が詳細に体系的に伝授する。そもそも生産管理とは、という問いかけから始まり、各種管理、生産計画、生産統制という基礎的な概念について解説し、後半では効率化、最適化、改善などについて理解を深める。最後には生産性向上活動、標準化、IT化にも言及し、収益向上へのヒントを提供している。全体を通して内容を70の小項目に分け1つひとつのポイントを押さえながら解説していくのが同書の特徴である。また、脚注の用語解説が非常に詳しく、知識の再確認や関連項目の参照に役立つ。生産管理に関わる一通りの知識が網羅されているので、発展的な取り組みをする際にも足がかりになるはずである。これから知識を習得しようとする方、日々現場業務に携わっている作業員、管理者の方にお勧めの手引書である。



世界一わかりやすいコスト削減の授業

若井 吉樹 著
定価 1,470円(税込)
サンマーク出版

昨年小欄でも紹介した「世界一わかりやすい在庫削減の授業」に続く第二弾。安易な人員整理と外注への切り替えを進めるコンサルタントに対抗して、中堅社員の野口君が大活躍。ムダとりと資源を活かす改善によって、見事生産性・売上高倍増を果たすまでの奮闘物語である。ストーリーを追っていくうちにコスト削減のポイントと手順が理解できてしまう、本当に読みやすくわかりやすい1冊である。野口君の工場と並行して進められる居酒屋の改善も興味深い。本当のコスト削減とはムダを削って、得られた資源や人を活かすことであり、日本の製造業生き残りの切り札であるという著者の主張がじわじわと伝わってくる。賃金カット、リストラ、経費削減によるコスト削減では企業は体力を奪われて、そのうちに力尽きて倒れてしまう、と著者はいう。同書を通してわれわれ自身が自分の仕事を見つめ直し、本当のコスト削減を考えるきっかけとしたい。